

令和8年度 一般選抜後期日程
小論文（環境学部） 出題のねらい

課題文は、生成A Iを含むA Iと人間社会との向き合い方を考える内容である。

問1

現在、対話型の生成A Iに人間性を感じ、利用している人も多いと聞く。しかし現段階のA Iは、入力された情報の意味は知らずに、ルール（マニュアル）に従って回答しているに過ぎないことから、本文では「A Iは知性ではない」としている。本文の内容から、A Iが入力された情報の意味を認識して類推・判断しているかどうかを知性の定義としていることを読み取れるかどうかを問う問題で、長文の内容の骨子、あるいはキーワードを読み取る能力を測っている。

問2

学生は、日々の学業においてA I（生成A I含む）を利用する場合、「賢く」利用することを意識しなければならない。その際の活用法を本文の内容から考える力を問う問題である。

問3

自然環境の調査、研究、管理を行う場面においても、膨大なデータセットの解析にA Iを活用し、現場に実装される機会が今後多くなると思われる。本学の卒業生が「環境に関する専門家」として期待される能力として、気象、海況、地質、そして様々な生物情報のデータセットを統合的に解析することが考えられるため、そのような将来の社会環境を理解し、大学で学ぶ意欲を問う問題である。